



忠故著文男 全



へ13
1745



仔細風流
後の三巻

先教首文好

蔵書



目録

上之巻

一 滅たふはたとうのぬ

むらん
むるの子と突出の婦ハ
昔勞と駿河の二丁町
あゝい雲量

二 穴目くくとハ晒神

そむ
借らんとてもまの二事
いづま町の奇比立尻
野を定白浪町の春花

三 いろぢり 白子男の都也

二様ぞしを繋てらるおろこね
ふらふら海り町の朝見せ
きむらの世帯て南田川
おんまの

四 源のゑる順礼窟

上方お下徳の鈍子替にら
色里奉納領國七十七ヶ所
胸の上れぬ祖父坂東

五 妹女高子姉和の松

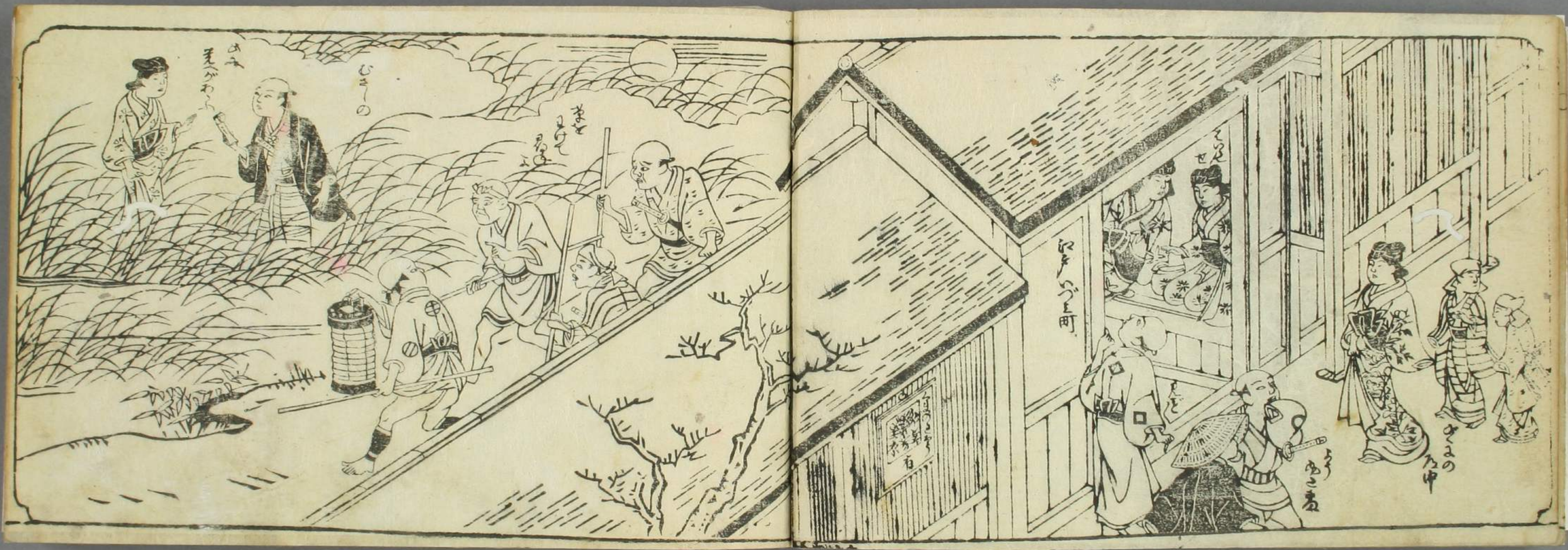
おんまの
おんまの
おんまの
おんまの
おんまの

一 誠虎右の松と丸のい

命なりたりはしの中いかに
せうし流のまじりか
目仲とつくはまあ
けいぬけの流や
てちの平島あ
りか
貪欲とこのも一代乃
の富とつま
成物
乃地獄
あつらふ



白米河の橋よりいづれに登り小袖りする
姿を凡そとらへおぼわねばらんとぞ
の地は白く獅子とがらんすまゑの墨法すまゑをえ
たゞれ收かんの流せんさるせん家の釋せん乃せん皮が飛
ぬで後付せんの吸せんわらんせんふことゝなるせん実
でのまかへよせん勢せんぶせん強せん氣せんぞせんけつせんけ
あひとひりせんよりれせんりせん今せんにせん登せんりせんぬ
庭せんわせんけせん中せんのせんおせんなせんもせんちせんにせん夕せん陽せんを
いせんづせんれせんがせんをせんさせんのせんおせんらせんはせん後せんへせん流せんつせん
とせん呼せんませんいせんとせん無せんかせん別せんはせん花せんのせん咲せんとせんません
ませんちせんのせん坊せんさせんりせんはせん五せん尾せんのせん親せん方せんませんちせんません
ぬせんでせんかせんけせんあせんりせんのせんませんへせんくせんれせん小せん河せんのせんませんへ
あせんらせんんせんどせんろせんばせんちせんのせんおせん見せんくせんませんりせんよせんそ
家せんのせんいせんらせんくせんませんやせんねせんとせん中せんでせんあせんらせんすせんとせん
流せんをせんませんらせんすせんけせん法せん師せんナせん因せん縁せんのせんひせんど
をせんおせんてせん尾せんとせんうせんげせんバせんツせん目せんれせんとせんんせんづせんい
志せんめせんはせんよせんいせんのせん呼せんのせん息せんとせんつせんあせんてせんらせんづせん終
あせんらせんくせんさせんそせんとせんませんません宵せんのせん小せん河せんのせん折せん流せん
とせんれせんはせん流せんはせん比せん五せん尾せんあせんそせんびせんもせんおせんりせんらせん
ぬせん河せん代せんとせんえせんへせんかせんらせんるせん平せんのせん部せんあせんらせん乃
金せんとせんなせんらせんよせん由せん縁せんのせん呼せん志せん相せん傍せん終せんとせん
尋せんるせんませんへせんどせんびせんろせんません所せんとせんちせんれせんばせんさせんづせんうせんか
らせんびせん今せんのせん体せんふせんませんよせんませんらせんがせんもせんつせんませんそ
むせんらせんのせんよせん月せんれせんせせんるせんをせん持せん勝せんとせんませんげ
てせんあせんらせん乃せんよせんのせんませんをせん腹せんにせんらせんそせんわせんれ
はせんおせんりせんらせんません印せんのせんあせんりせんどせんほせんとせんいせん及せんも
やせん。三せん味せん線せんがせん一せん丁せんりせんやせんとせんはせんにせんませんらせんせせんて
あせんのせんよせんとせん一せん丁せんりせんのせん一せん村せん着せんらせんる



はな

まがわ

ひまの

ま

ま

ま

ま

ま

ま

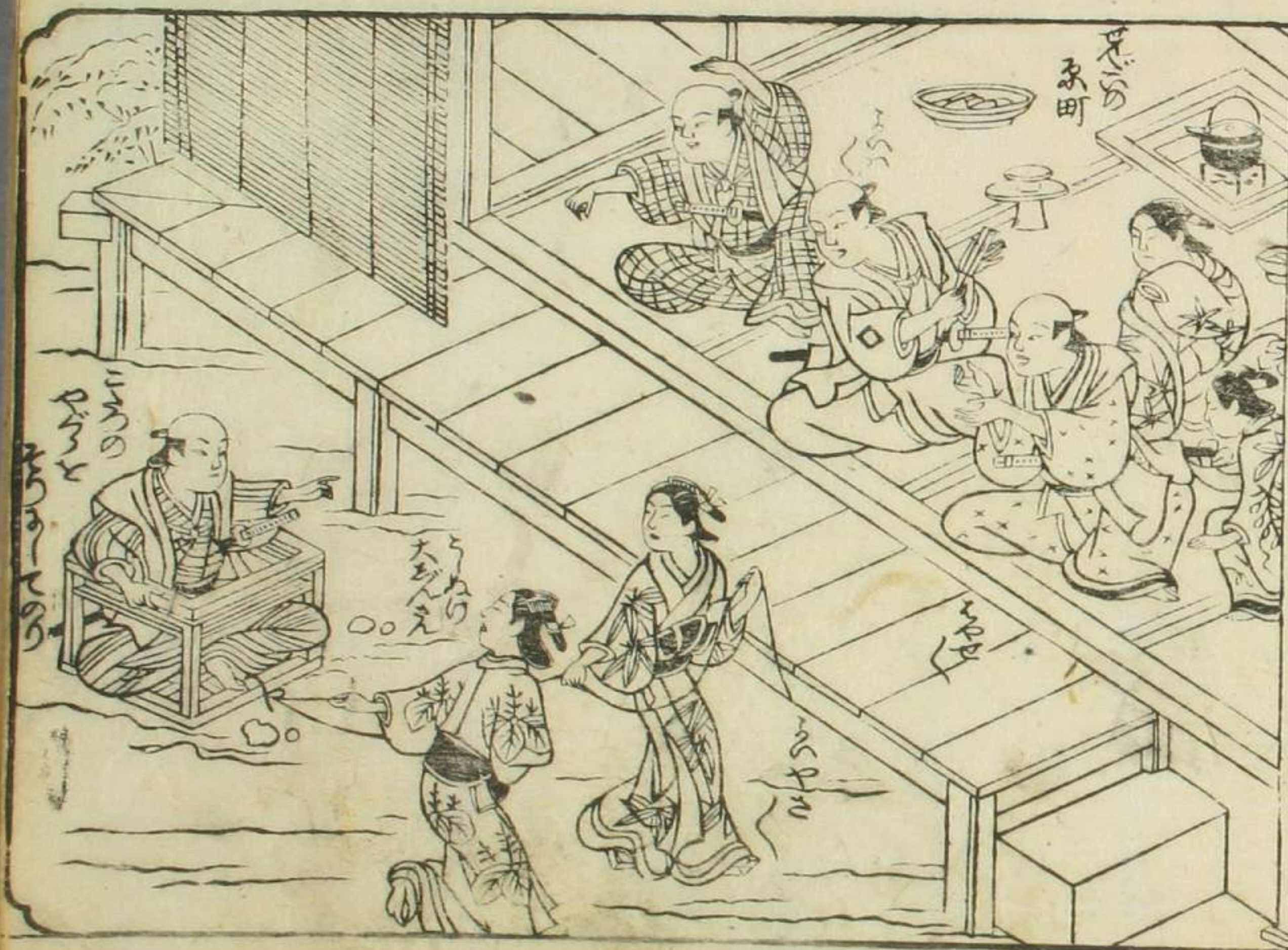
くやへおとせしめよとせつられやうそ
あつりののさあかんすみづ川のおお
ひよつとよと提立れ大曲の所
とてつらあまはめられぬ風俗めれい
惟ととへお取捨してあやと系
の大曲。こゝろと本換所ととけ持ま
せしあゝおととP. 記つてひとここれ
はるり平よとあてかあとりつと
とととりんおと。内池も記のわらやほ
中へあつたの口あけて人ごらまひ
しるれ縁とゆづり合。火繩に二すお
てあつたはよと。あつたわらてしつ
ろよお取捨とあり。あつたもあつた
の外にありつと。こゝろの影をよ

おれい。合お子の腰際子引とあつた
とつたあつた。あつたあつたあつた
すつたあつた。あつたあつたあつた
境仏壇のわらとあつたあつた。この村
あつたあつたあつたあつたあつたあ
く。こゝろのあつたあつたあつたあ
のこゝろ。あつたあつたあつたあ
いつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
よあつたあつたあつたあつたあつたあ
てあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ



ゆりもあつてまげいん今やのよいかい
い時言とほもあづと申くゆり
すねも念子方そとせりいざなり
村崎よきと方が浦一たりと振
言まのみの教条と申て。たまぐ
るいんたふものいざいんと毎
申かたはたけりしがあひあひり
きたの祝意あつこの祝よたら
りし水好燈とびとて。たまらぬ
命のこゝらあせり。橋申して申す
あつ男と物なぬねとそとたや
る部とびつたれがその海り。又乃
所かんまでそのひらひの強りうと
のんてこればんたふ。あつらり

あつ。あづれていん今やのよいかい
いよいまとら河次の男よい
かた女のおとて。まゝまゝいおま
あつとあつあつ合てらとされ
い。あつと今つれとあつらり
平乞いし地ららと申と申て
まはあつたつ。あつびくはつら
て。まゝまゝたふ。あつや縁と
あつとつらつら。あつとあつ
甲の編拂とつらけと申と申
まゝとあつて。あつとあつ
と眼血うらつて。あつとあつ
平もつらつら。あつとあつ
何をあつたよ。あつとあつ



くむ時^{あけ}の^{あけ}る^{あけ}節^{あけ}の^{あけ}を^{あけ}ま^{あけ}る^{あけ}れ
 べかり平^{あけ}に^{あけ}ま^{あけ}て^{あけ}あ^{あけ}ひ^{あけ}し^{あけ}婦^{あけ}の^{あけ}あ^{あけ}り^{あけ}と^{あけ}わ
 の^{あけ}あ^{あけ}せ^{あけ}と^{あけ}ま^{あけ}ひ^{あけ}お^{あけ}ま^{あけ}の^{あけ}け^{あけ}の^{あけ}瓶^{あけ}よ^{あけ}と^{あけ}め
 せ^{あけ}て^{あけ}ま^{あけ}け^{あけ}の^{あけ}や^{あけ}ま^{あけ}一^{あけ}首^{あけ}と^{あけ}つ^{あけ}
 祿^{あけ}ら^{あけ}ふ^{あけ}い^{あけ}た^{あけ}我^{あけ}と^{あけ}や^{あけ}り^{あけ}と^{あけ}ま^{あけ}い^{あけ}ら^{あけ}る^{あけ}人^{あけ}
 せ^{あけ}て^{あけ}あ^{あけ}ひ^{あけ}に^{あけ}ま^{あけ}が^{あけ}あ^{あけ}る^{あけ}ま^{あけ}い^{あけ}ま^{あけ}人^{あけ}と^{あけ}母^{あけ}
 かん^{あけ}い^{あけ}ま^{あけ}れ^{あけ}り^{あけ}東^{あけ}を^{あけ}ま^{あけ}ね^{あけ}と^{あけ}せ^{あけ}し^{あけ}と
 御^{あけ}ら^{あけ}ふ^{あけ}ら^{あけ}平^{あけ}も^{あけ}あ^{あけ}れ^{あけ}と^{あけ}ま^{あけ}る^{あけ}衆^{あけ}衆^{あけ}の^{あけ}
 睨^{あけ}いの^{あけ}ね^{あけ}乃^{あけ}人^{あけ}ち^{あけ}つ^{あけ}た^{あけ}の^{あけ}て^{あけ}い^{あけ}い^{あけ}と^{あけ}
 い^{あけ}ら^{あけ}ま^{あけ}ま^{あけ}を^{あけ}ま^{あけ}れ^{あけ}後^{あけ}の^{あけ}ま^{あけ}あ^{あけ}ら^{あけ}せ
 け^{あけ}し^{あけ}心^{あけ}の^{あけ}ま^{あけ}り^{あけ}に^{あけ}ま^{あけ}れ^{あけ}衆^{あけ}衆^{あけ}と^{あけ}同^{あけ}な^{あけ}し
 降^{あけ}り^{あけ}ま^{あけ}れ^{あけ}ま^{あけ}ま^{あけ}れ^{あけ}し^{あけ}ま^{あけ}あ^{あけ}ひ^{あけ}ね

上之巻終

侍勢風流 後の三巻 忠義敬首文好

目錄 中之巻

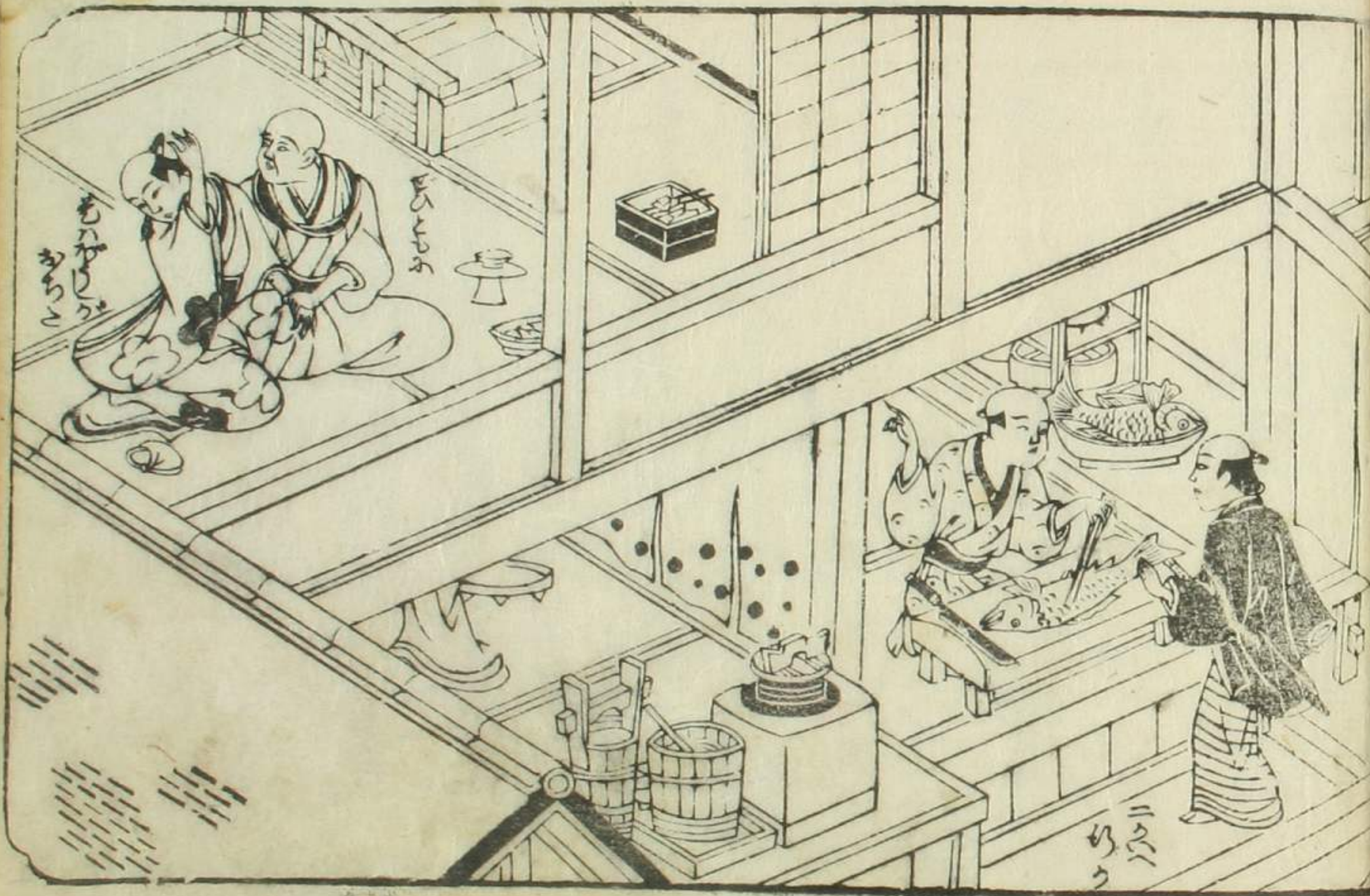
一 海江よりまての表

胸のあひと割て身する本枕町
 名^{あけ}ら^{あけ}ま^{あけ}か^{あけ}つ^{あけ}つ^{あけ}嵐^{あけ}本^{あけ}戸
 猫^{あけ}あ^{あけ}て^{あけ}声^{あけ}の^{あけ}場^{あけ}主^{あけ}客^{あけ}

二 内院空へ流るる乃煙

善光寺生由來中つりのみ
 金^{あけ}目^{あけ}一^{あけ}万^{あけ}両^{あけ}厘^{あけ}溜^{あけ}ひ^{あけ}て^{あけ}料^{あけ}料^{あけ}の^{あけ}
 極^{あけ}女^{あけ}も^{あけ}粹^{あけ}う^{あけ}身^{あけ}と^{あけ}ら^{あけ}ふ^{あけ}巻^{あけ}せ^{あけ}て^{あけ}金

後世に語り傳へし。聲をのびて
くははのうめりともて。藤高こ
とぶこのがうへにまればう
ゆへて二階の梅も二どんめに大
まみ敷てあるん物い。藤高こ乃
名月をば。八月十
の日は。今館のついでなり。
ふま。此の。藤高こ乃の
あまは。藤高こ乃の。何
んは。ありて。人の。藤高こ乃
ふら。藤高こ乃の。藤高こ乃
ま。藤高こ乃を。藤高こ乃
し。藤高こ乃だ。藤高こ乃
の。藤高こ乃。藤高こ乃
す。藤高こ乃。藤高こ乃
男の。藤高こ乃。藤高こ乃
あせ。藤高こ乃。藤高こ乃
藤高こ乃。藤高こ乃。藤高こ乃
つ。藤高こ乃。藤高こ乃
ら。藤高こ乃。藤高こ乃
三。藤高こ乃。藤高こ乃
ん。藤高こ乃。藤高こ乃
と。藤高こ乃。藤高こ乃
く。藤高こ乃。藤高こ乃
ふ。藤高こ乃。藤高こ乃
甲。藤高こ乃。藤高こ乃
お。藤高こ乃。藤高こ乃



あつてはつたおちの仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おちの仕りたての仕りたて

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

おぼしめし給ふ所のお出せよして先

づから對してある。おぼしめし給ふ所の

馬よりいふにさういふにやうに

らうらうとあつてはなほさういふにやうに

た。されど女房のありがうへは味おぢ

と極々を極で書きたるに相てはなと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

と梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつてはてのうへは味おぢと中

く梅こころもあつて。そのまゝに名乗

まよ。我もまよりのされど親乃も

あつた一もふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

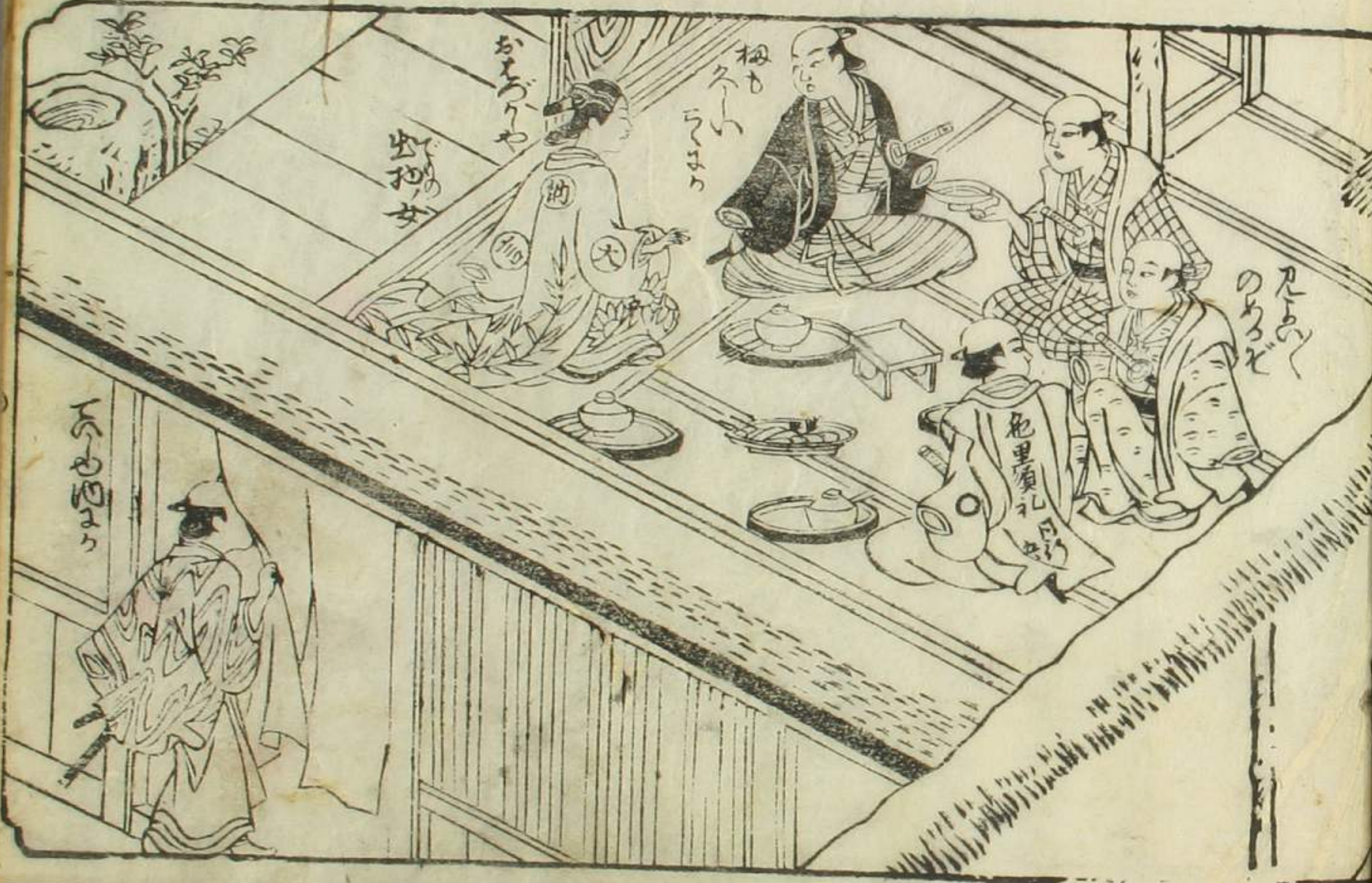
あつたもふりおしほつた園を井いり

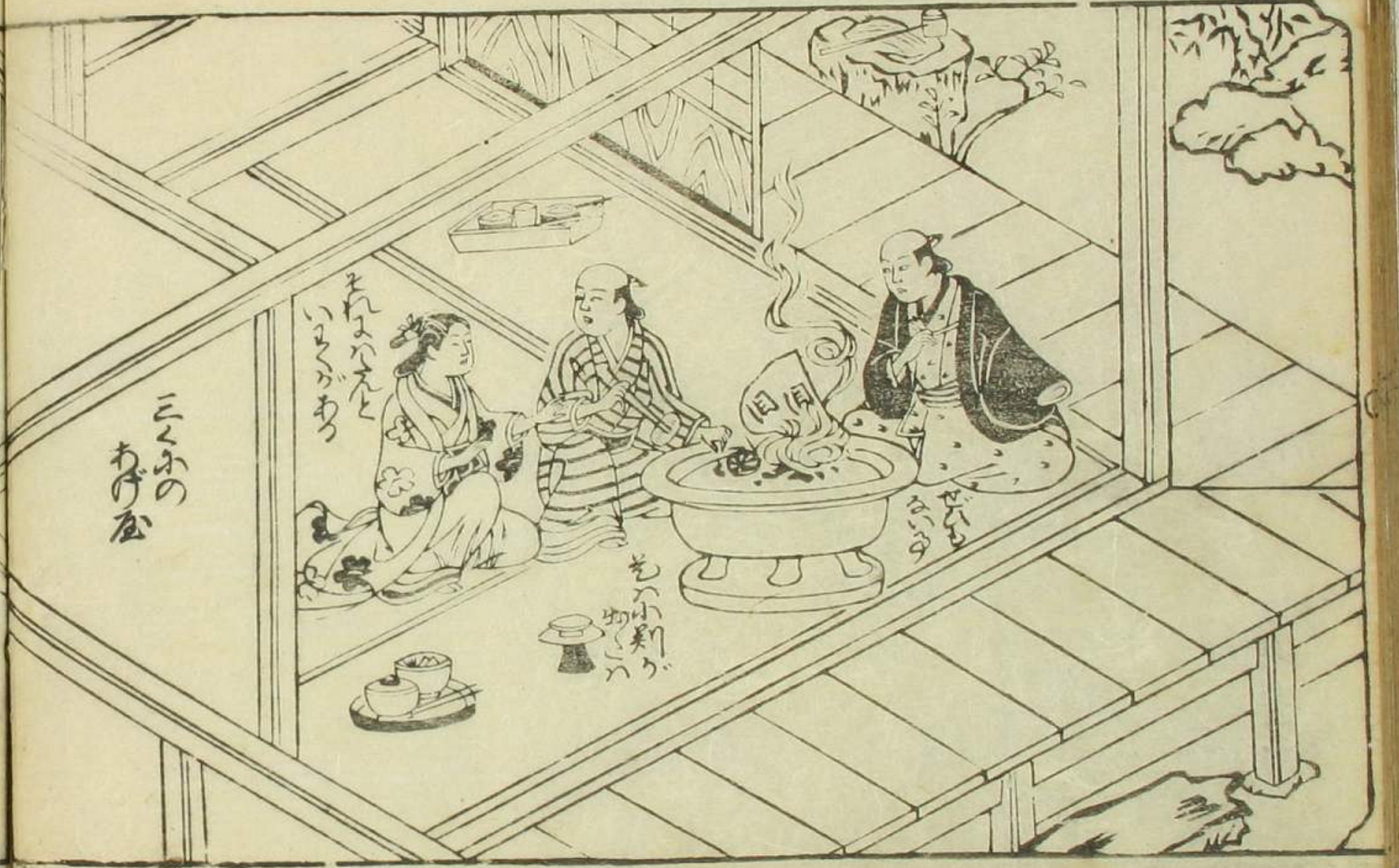
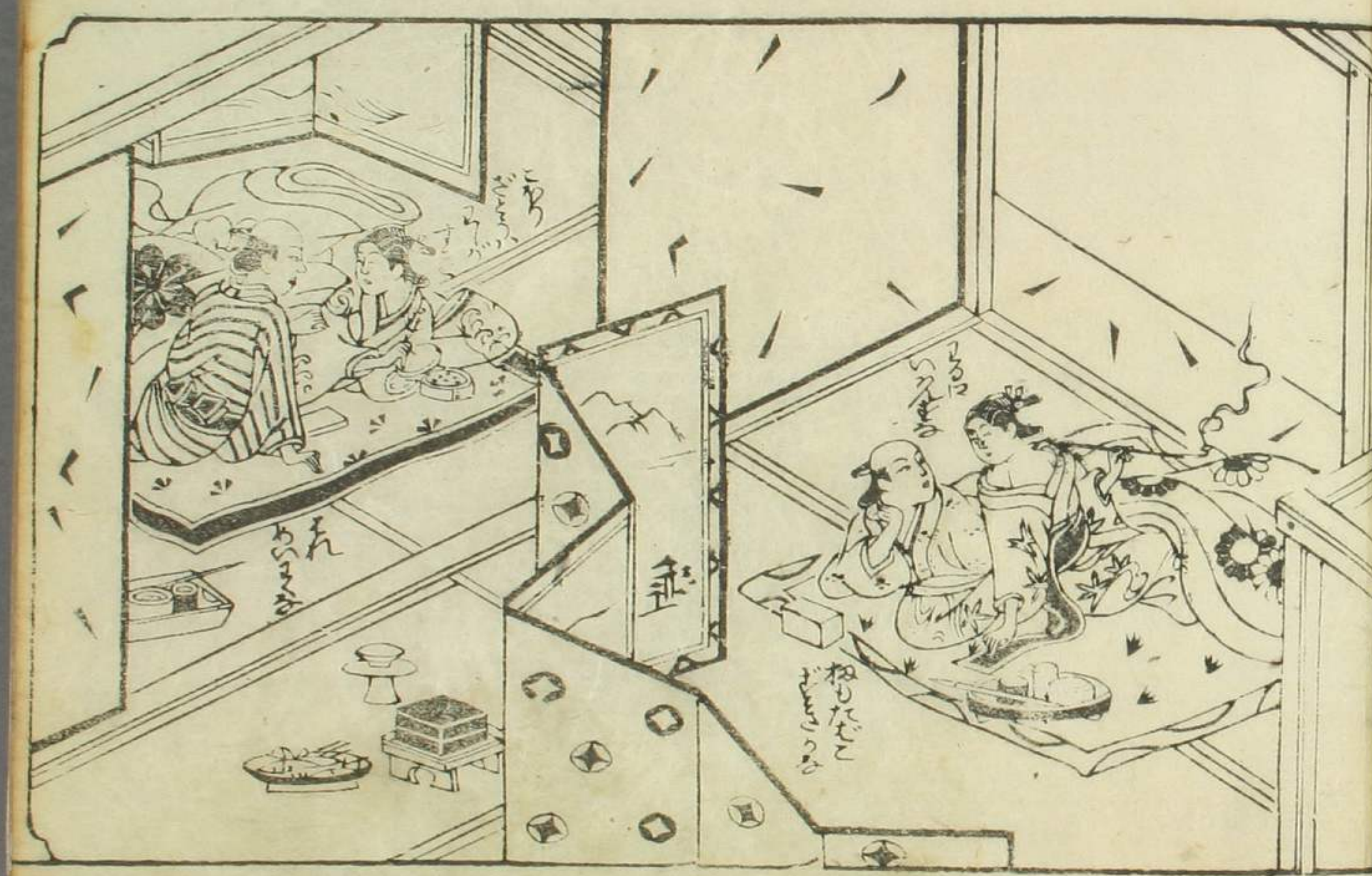
あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

あつたもふりおしほつた園を井いり

松本同家の月形と申され白後大納言と申
 るや此世ごとの世にあつて候へばまに
 本よりいぬまゝ一人恨ありとて大納言と
 名のちりあままり取直あるはくても目
 としつゝあれがまの井もまもつておめい
 たりしる中味私を大納言とて呉名よ
 づら大納言とていふ豆わりのその豆づら
 と申あつて申すつゝおめい。お梅と申の
 中色をわきまのめい。お梅と申のめい
 ぞうりかお梅と申す。お梅と申のめい
 ありと申すはお梅と申す。お梅と申のめい
 へり子細いお梅のめい。お梅と申のめい
 と申のめい。お梅と申す。お梅と申のめい
 へりお梅と申す。お梅と申す。お梅と申のめい





三つおの
あひな

それよへえと
いふが
あ

その小判が
物い

あ

あ

ねりな
あ

あ

あ

あ

三 壬生よりの南の軒端

朱葺(しゆき)の細(こ)なま(ま)の(の)ひろ(ひろ)い(い)土(ど)盡(じん)
おろ(おろ)せ(せ)宿(しゆく)に(に)ま(ま)と(と)編(へん)笠(かさ)共(ども)を
一(いち)味(あじ)入(い)ら(ら)る(る)一(いち)味(あじ)

四 沓地まゝ庭前の陰奥

客(きやく)の(の)ん(ん)を(を)う(う)ん(ん)で(で)焼(や)く(く)ら(ら)る(る)
おの(おの)壇(だん)電(でん)紙(し)置(お)き(き)石(いし)の(の)る(る)湯(ゆ)
ね(ね)の(の)り(り)の(の)ま(ま)ね(ね)ら(ら)る(る)を(を)

五 一念(ごんねん)記(ぎ)してまの人の鏡(かがみ)也(なり)

ま(ま)ま(ま)水(みづ)わ(わ)ら(ら)る(る)お(お)ん(ん)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)
う(う)ら(ら)る(る)後(ご)世(せい)に(に)お(お)ま(ま)ま(ま)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)時(とき)
年(とし)経(た)ぬ(ぬ)る(る)方(かた)の(の)ほ(ほ)梅(うめ)

一 揚法(やうほう)の(の)百(ひゃく)お(お)わ(わ)ら(ら)る(る)ま(ま)婆(ば)

志(し)が(が)美(み)の(の)し(し)穠(じゆん)も(も)ゆ(ゆ)か(か)ら(ら)る(る)あ(あ)ら(ら)じ(じ)
て(て)雜(ざ)本(ほん)三(さん)葉(えふ)み(み)而(り)よ(よ)き(き)葉(えふ)掃(は)ら(ら)る(る)が(が)字(じ)
乃(な)清(きよ)ら(ら)る(る)く(く)ま(ま)紙(し)に(に)冬(ふゆ)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)
お(お)は(は)き(き)居(い)る(る)町(まち)よ(よ)の(の)ま(ま)指(ゆび)を(を)お(お)て(て)侍(ざむらい)
正(ただ)月(つき)の(の)好(この)よ(よ)う(う)す(す)ま(ま)を(を)め(め)ら(ら)る(る)を(を)
あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)ら(ら)る(る)ふ(ふ)つ(つ)が(が)ひ(ひ)か(か)あ(あ)の(の)口(くち)
さ(さ)ら(ら)る(る)も(も)お(お)ら(ら)る(る)べ(べ)き(き)池(いけ)乃(の)川(がわ)の(の)針(はり)を(を)
お(お)ま(ま)子(こ)進(しん)分(ぶん)後(ご)ら(ら)る(る)と(と)ん(ん)ら(ら)る(る)と(と)奴(やつこ)の(の)
後(ご)は(は)魚(うま)の(の)け(け)あ(あ)の(の)い(い)ら(ら)る(る)ち(ち)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)
ら(ら)る(る)を(を)い(い)と(と)の(の)ま(ま)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)
あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)い(い)と(と)の(の)ま(ま)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)
ま(ま)が(が)ら(ら)る(る)を(を)い(い)と(と)の(の)ま(ま)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)

たひ屋のよ代修味のまゝの口舌

して。お花女帝の河内とのまゝは。

おんざれ乃入で。無釋。米屋町の

まゝののい婦の心をさして。と

がり竹を優よちろみ。床好和の女

房と下用にかか。ら。づ。き。と

大はるのおいじした。ら。づ。ま。男。た。

とりをのつちのひより別とあて

物。の。い。八。町。の。精。屋。乃。む。す。こ。か

は。づ。お。淋。乃。梅。を。う。け。ぬ。て。い。し。

づ。ら。づ。せ。ら。ら。た。中。め。づ。情。乃。た

と。て。あ。も。も。や。ら。く。あ。ら。ち。の。ち。と

ら。あ。ひ。て。あ。ら。づ。は。あ。ま。う。こ。み。津

あ。り。け。い。こ。と。り。あ。て。ら。づ。あ。ま。い。ら。づ

づ。と。お。花。も。た。の。い。ち。あ。ま。ら。づ。ら

ら。井。筒。屋。の。門。は。よ。い。せ。ら。ま。さ。き。あ

して。つ。ぢ。や。方。より。娘。で。の。お。あ。ら。お

町。と。ぬ。と。ま。り。ま。う。て。ト。と。れ。と。人。を

一。と。か。ら。ら。ふ。お。町。の。ら。と。あ。る。つ。あ。の

あ。る。れ。い。づ。ら。を。は。ら。い。け。い。の。お

あ。を。念。入。と。足。と。ら。ふ。と。い。ち。ち。あ。男

の。い。方。髪。お。ら。あ。さ。ぬ。の。風。一。や。こ。ず

せ。い。あ。や。あ。り。ひ。と。は。さ。と。あ。ま。ま

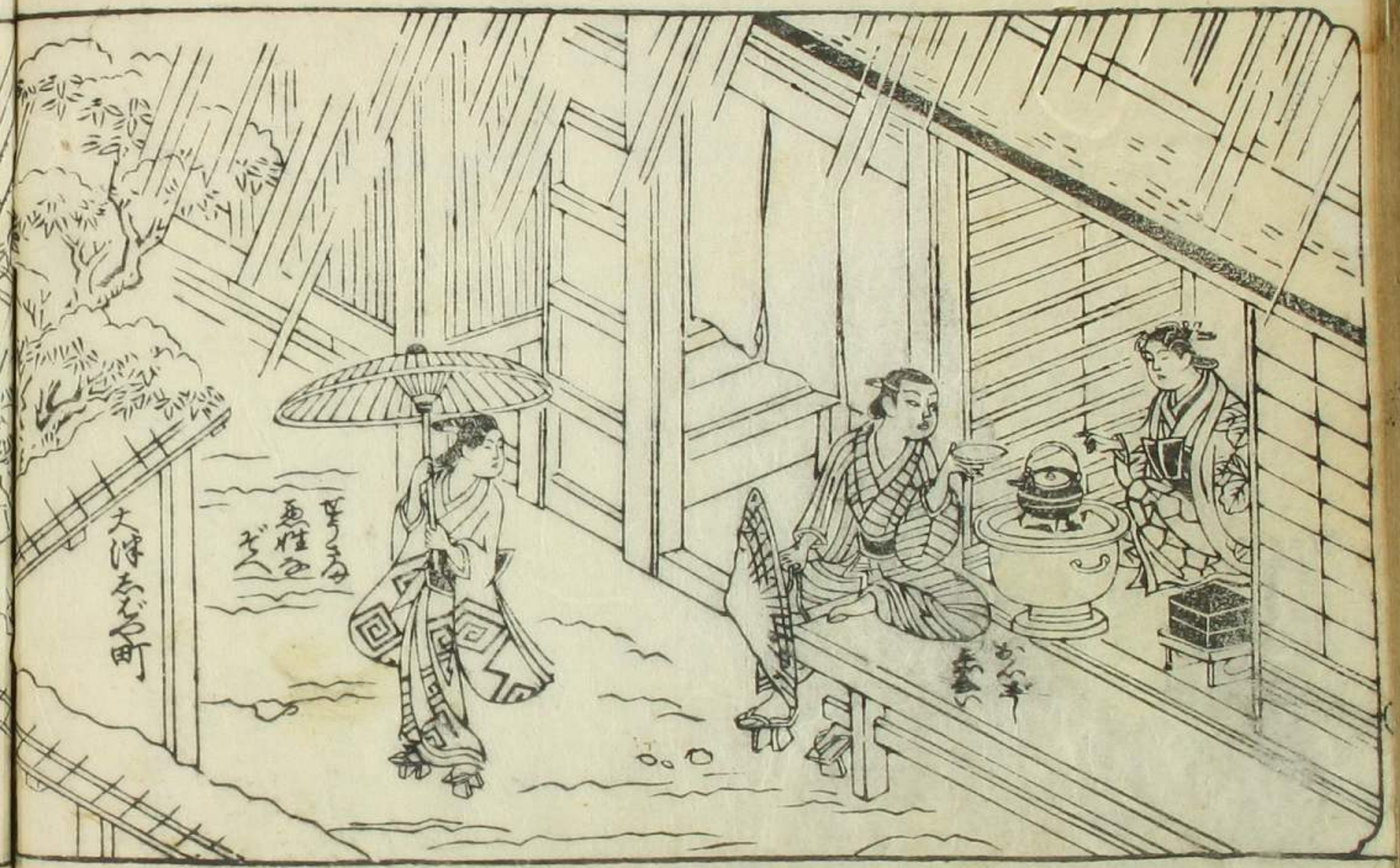
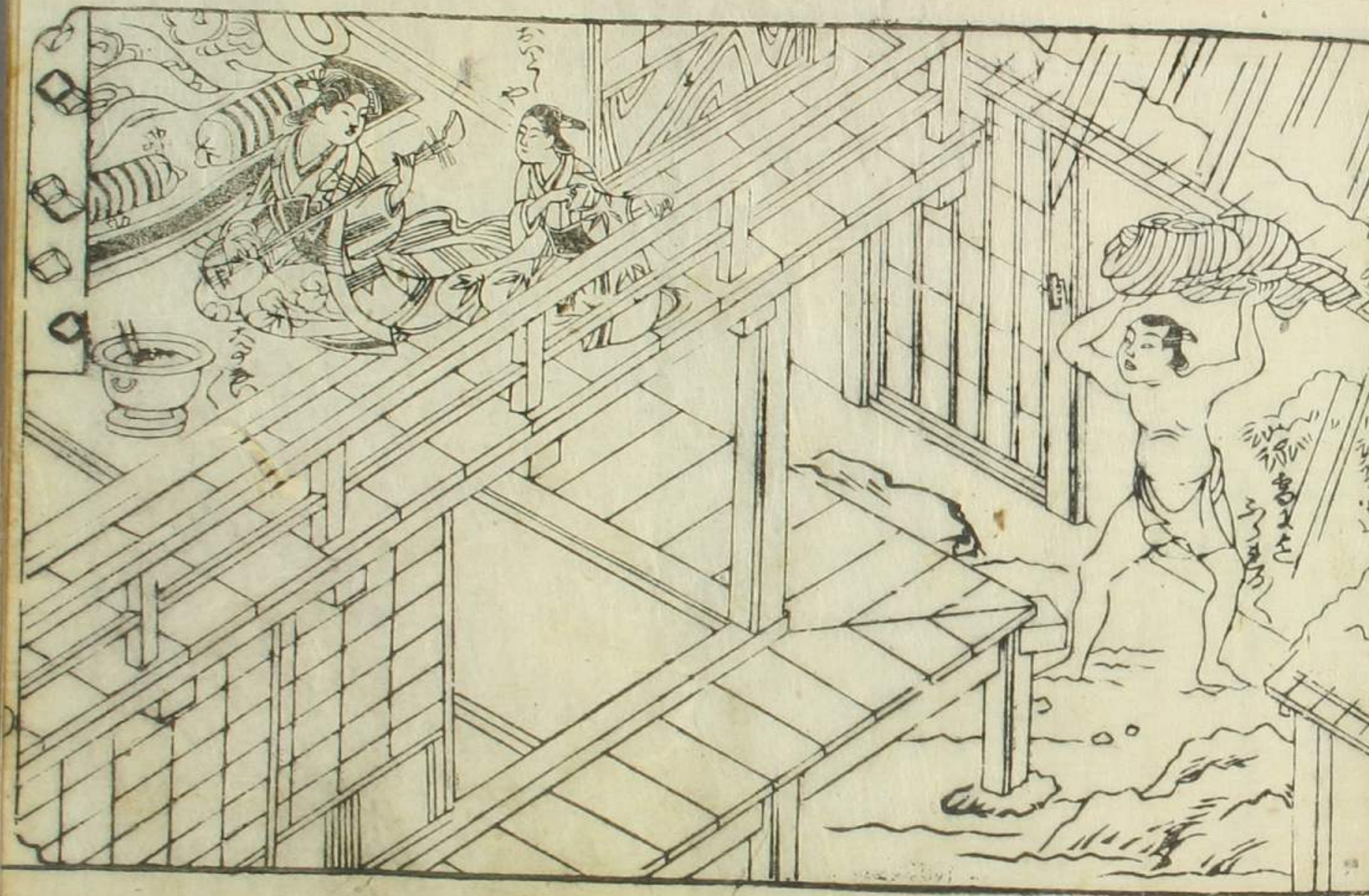
ひ。そ。ら。く。い。て。つ。ぢ。や。あ。り。づ。ら。く

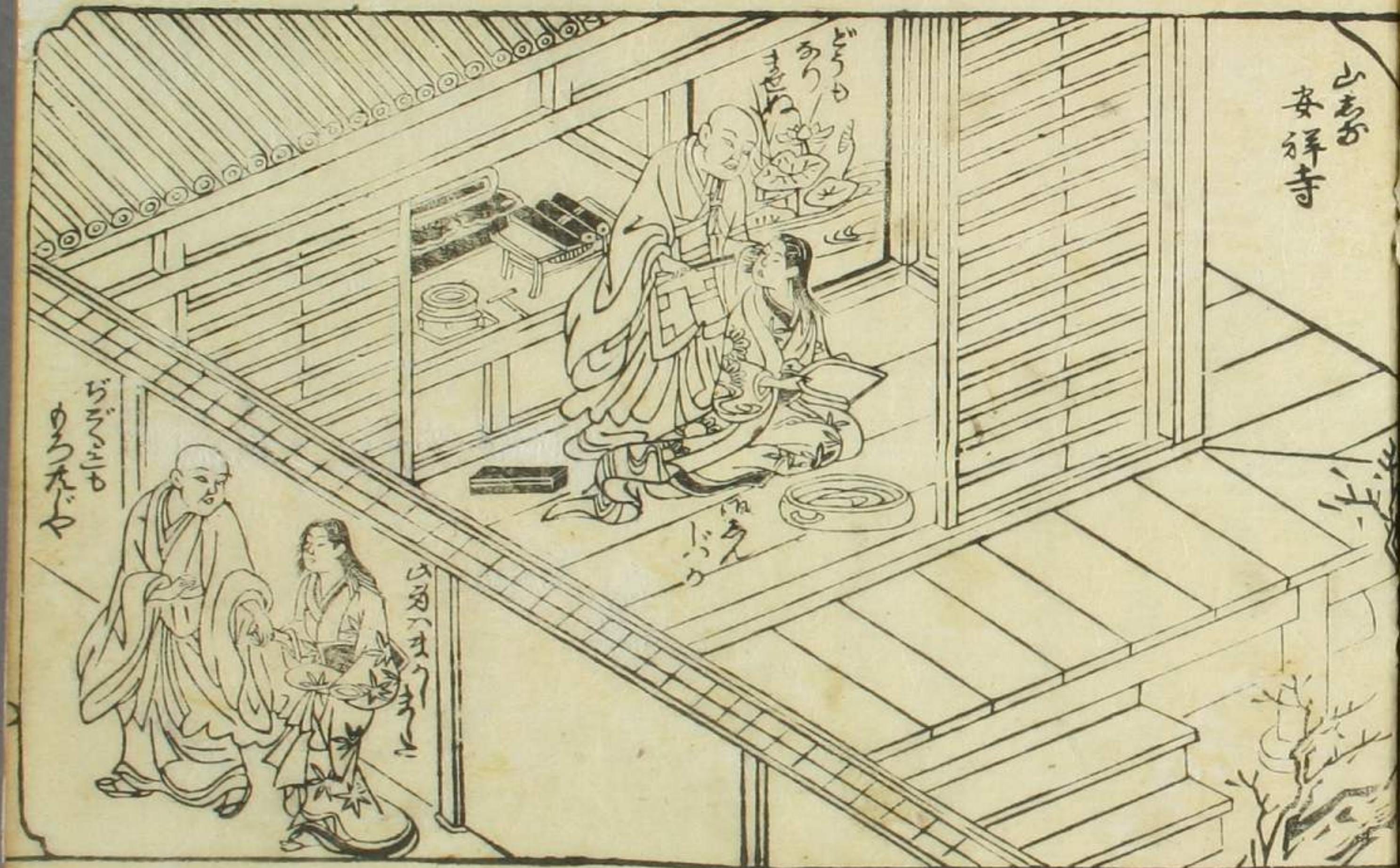
と。あ。ま。る。あ。り。い。た。あ。ひ。よ。う。う

ぬ。ほ。あ。ま。の。は。信。乃。お。あ。ら。り。お。町

を。と。あ。ま。一。し。い。つ。い。て。あ。ら。れ

は。お。の。い。あ。ら。い。あ。下。は。あ。て。





山家
安祥寺



おの
かみ
の
かみ

高僧とて自らて書せしはとていへり。

乞ふてくありて後ちがひあり。信

末身一の夫とて天婦女を愛するより

ありてはあはじ。此の世のありては

して極でををそくた。いつか

二条一打おして下されしといはれ

られど。むね工面として地目を賣

けり。と。平日よつ度の甲子ハ

ちど。夷儀よはとありてよだれて

ゆひのちりまといふといふあはれ

かくははくある大書成へのるま

して。英令社の小判のちあふあを

極致をいして用。たひひ十方

ありてをそくた。いつともあはれ

させてあはれ。この世のあはれは

名をいしてあはれ。この世のあは

り。信はは里へてまんそくはあ

べつていふとせり。この世のあは

大坂屋の中まを年のあはれもの

るが。まのあはれとあはれあは

ま。かんの親のあはれ。この世のあ

り。いとあはれ。この世のあはれ

あはれ。この世のあはれ。この世のあ

あはれ。この世のあはれ。この世のあ

あはれ。この世のあはれ。この世のあ

あぐてよりあぐとすよて氏神

今まましくいゆらららいんぐと行

とらあやわらんぐとあせららるるはよ

その身ハあつとまてあままとあふ

あひびくとあらら。たつんのかくた

あてあひびくと一あよ源のあち

大あふいびとまりれ地はあれのお

どめ。あのあつあつといふあつあ

し色。隅のあつあつあつあつあ

あつあつとあまは細い下向のあひ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

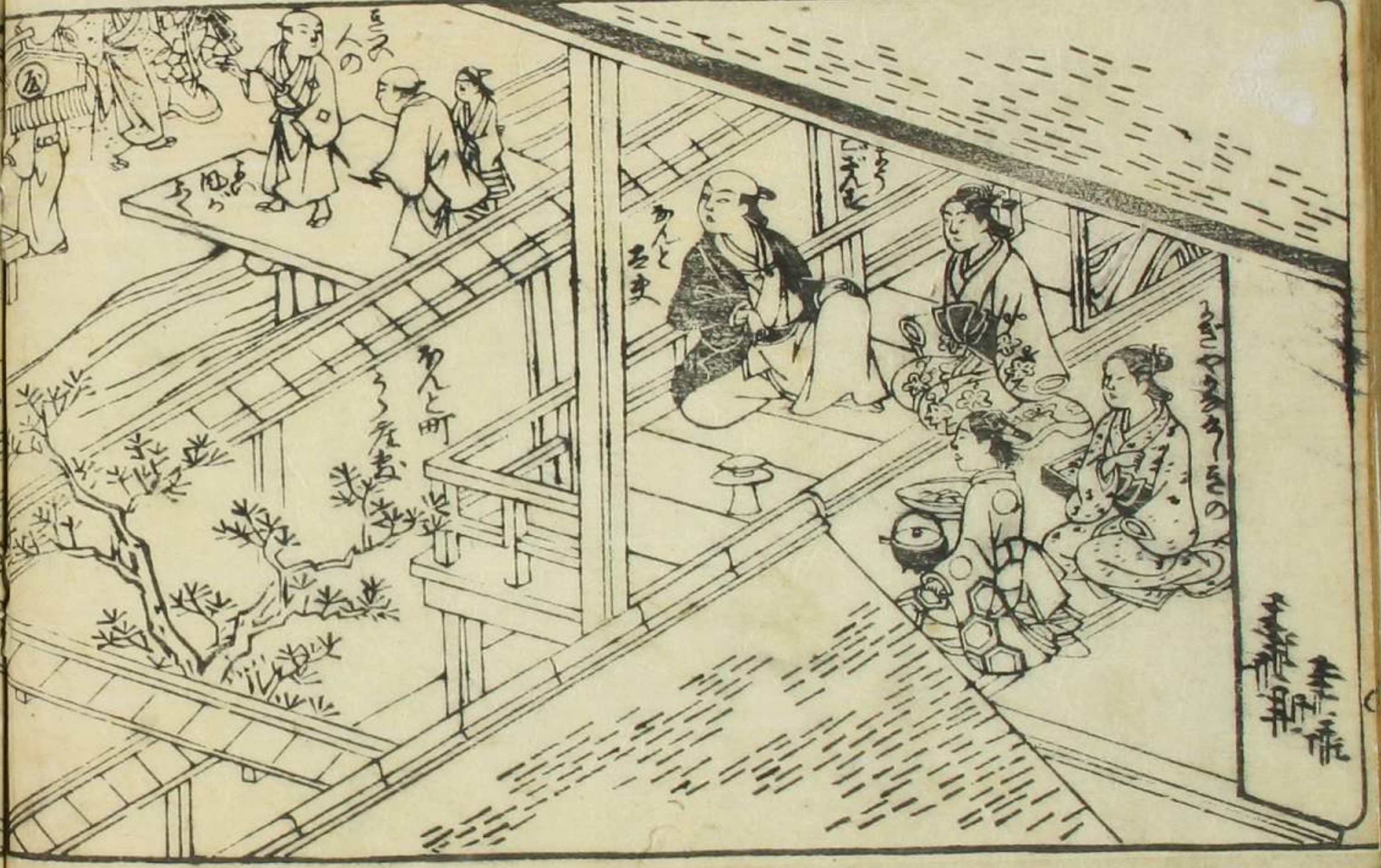
あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ





女郎も大盡も手まはし下へはゆくと
り天獄の勤れはちよは泥をのどけて
一人わらわは茶まんをさすりもち
忍の上乃ち忍とやしてあはれがひに
のつぬ今々の世中。想じて大盡
も。うらひをたけけ子菊のあまぐん
ならとわがけ。只病をされあまぐ
が月のどくお情。あつるよりのか
いさね。傷病のこひとあをれま。
そのちの何もやぶんのとりまの。我
もんもおさめり。一に代乃喜小
あふそまの。下巻終

